



研究者名※	瀬尾 美紀子 SEO Mikiko	学位※	博士(教育学) 修士(理学)
所属※	人間社会学部 教育学科	職名※	教授
連絡先	seom@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/seomikiko		
研究分野※	教育心理学		
研究キーワード※	メタ認知, 学習方略, 自己調整, 論理的思考, カリキュラム・教授法開発, 学力評価, 教員養成		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストをいかにして授業改善につなげるか: 阻害要因の検討から学校での実践まで(科学研究費・基盤A・研究分担者, 2019~2023年) ・21世紀型スキルの理解, 測定および促進方法: グローバルコミュニケーション, ディープラーニング, クリティカルシンキング(科学研究費・基盤A・研究分担者, 2015~2019年) ・失敗を教育に活かす: 失敗の学習促進メカニズムの解明と学校教育への展開(科学研究費・基盤B・研究分担者, 2014~2018年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・公立中学校及び小学校の校内研究会講師(荒川区, 豊島区, 立川市, 鎌ヶ谷市, 山形県村山市等) ・千代田区教育委員会「質の高い初等教育の在り方検討会」委員(2016~2017年) ・日本教育心理学会常任編集委員(2017年~2019年) ・パナソニック教育財団 専門委員(2017年~) 		
受賞歴	日本教育心理学会優秀論文賞(2006年)		

研究領域	教育心理学	
研究テーマ※	学ば力の育成を実現する学校教育のリデザイン	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>社会の変化に応じて新たな知識や考え方を学ぶことが求められ, 自ら学ば力の育成は, 学校教育の新たな主要課題となっています。教育認知心理学の分野では, 学習のメカニズムに基づいた学び方に関する研究知見が蓄積され, それらを活用した学校教育のリデザイン(再設計)が有効かつ必要と考えています(図1)。</p> <p>授業で教わるから, 自ら学ぶ授業へと転換する「①授業方法のリデザイン」, 学び方をデモ実験を通して体験的に学ぶ「②学習法講座の実践」, アウトプット型学習を組み込んだ「③家庭学習(宿題)のリデザイン」, 旧来の暗記再生型テストから思考・判断過程を表現させる「④学習評価方法の開発」について, 小・中学校との共同研究を展開し, それぞれについて成果を得つつあります。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を核とした①~④についての共同実践研究 ・学習理論に基づいた学び方指導についての現職教員研修, および教員養成プログラムの開発研究 <p>【研究方法の特色】</p> <p>研究者自身が, 授業づくりや授業実践に直接的に関わることを心がけ, 学校の先生方と意見交換をしながら, 教育実践を共に創り上げていく研究スタイルです。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬尾美紀子「子どもの自己調整学習力を育てる学習法講座—小学校における実践可能性に関する検討—」『日本女子大学総合研究所紀要 (22), p.129-210, 2019年 ・瀬尾美紀子「第12章 教訓帰納は学校でどう指導できるか」『教育心理学の実践ベース・アプローチ』p.171-184, 東京大学出版会, 2019年 ・瀬尾美紀子『教育心理学 : progress & application』サイエンス社 2021年 	
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校・高等学校との共同研究 ・地域の公的学習支援団体や教育委員会との共同研究 	

